

会 員 通 信 ・ News and comments

第2回魚類分類談話会のこと

Second Seminar for Systematic Ichthyology
in Maizuru, Nov. 2-4, 1985

京都府の北にある舞鶴湾に面した京都大学水産実験所での魚類分類談話会も第2回を無事に開くことができましたので、ここにその内容についてざっと紹介しておきたいと思います。

第2回は全国から45名が参加され、11月2日に夕食談話会、3日に研究発表会と懇親会、そして4日は標本観察会という日程と行事でした。

今回は「亜種あるいは種以下の分類群」というテーマをもうけ、これを中心にその他様々な話題について話していただきました。以下に研究発表の題と話題提供者について記しておきます。

1. 個体発生と系統発生：日本産ナマズ属魚類の場合、小早川みどり（九大・農）
2. 日本産ホウネンエソ属魚類の分類学的検討、藍沢正宏（東大・資料館）
3. 静岡県掛川市周辺に分布する鮮新統大日砂層からの魚類耳石群集について、大江文雄（愛教大附高）
4. 標本の意義と整理方法、松浦啓一（国立科博）
5. 板鰓類における亜種、石原元（エイ類研）
6. オドメメスケとアラスカメスケの関係について、石田実（北大・水）
7. 大型表層性魚類における亜種について、中村泉（京大・水実）
8. スジシマドジョウの地方種族、斉藤憲治（京大・農）
9. アユの種内変異をどうとらえるべきか？ 東幹夫（長崎大・教育）
10. カズナギ属の1未記載種について、木村清志（三重大・水実）
11. 日本産コケギンボ属の種分化、深尾隆三（残留農業研）
12. 総合討論

小早川氏は日本産ナマズ属魚類の祖先・子孫関係の推定に個体発生の過程を調べることに由来するアプローチについて話していただいた。藍沢氏のは日本産ホウネンエソ属の分類学的研究成果の発表であった。大江氏のは静岡県掛川市から得られた魚類耳石化石の研究成果であり、これらの化石は第三紀末期のものでその40%が現世の

種とほとんど同一で60%が現世種とよく比較できる程近縁のものであった、という興味深い報告であった。松浦氏のは魚類標本のもつ重要性和その管理についてであり、個人によって採集され研究に使用された標本がともすれば私蔵されて他の研究者がみられなくなりがちであることを指摘し、心情的には理解できるが、それは誤りであり科学論文に使用した標本は公開されるべきで、誰にでも観察できる公的な研究機関に保存されなければならないことを述べられた。これは当然のことなのだが、わが国の魚類学界でいまだに実現されているとはいえない。模式標本の観察が十分に行なえない現実があるのである。さらにポリエチレン製の標本保存容器の耐久性について話していただいた。白いバケツ風のフタ付密閉容器は製造業者の話によると、5年ともたない可能性があるそうである。もちろん日光にさらすと、そうでないのと随分と耐久性は異なってくるのだが、私達の水産生物標本館の標本保存容器の大部分がポリエチレン製であることを考えると頭をかかえてしまう。石原氏、石田氏、それに中村氏は実際に自分が研究している分類群の中でかかえている亜種の問題についての話であった。斉藤氏の話はスジシマドジョウの種族の中では、斑紋を中心としてみた形態の相違に重点をおいてみると、別種となるべき種族間よりも、同種内の型とすべき種族間の方が、その程度が大きいという誠にややこしくて分類をする者にとっていやな結論であった。東氏は琵琶湖産アユの種内に4つの遺伝的に分化しつつある集団があるという仮説の提唱者であるが、その仮説が最近の研究によって棄却されつつある。そういう現状のなかで、東氏は集団C（沖合性のコアユ）の実在性をふまえて、それをアユ種内での幼形進化による分化と考えたい、という話をされた。木村氏の話は、カズナギ属の未記載種と既知種の形態の比較を判別関数を使って示された。深尾氏は、これまでコケギンボと同定されてきたものに数型あり、それが遺伝的にも生態的にも独立したものであることを示され、それが同所的におこる生態的種分化によるものであるとの考えを話された。

今回の談話会は、亜種あるいは種以下の分類群を話題にすることで、実は種を搦手から攻めてみようというのが世話人の意図だったのですが、どうも亜種という言葉にふりまわされた感じがします。今年も第3回を11月の初めごろに開く予定をしております。多くの皆様の御参加をお待ちいたしております。この会に関する御意

見・御質問がございましたら、中村 泉 (〒625 京都府舞鶴市長浜 京都大学水産実験所) か中坊徹次 (〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学農学部水産学科)

までお寄せ下さい。(中坊徹次・中村 泉 Tetsuji Nakabo and Izumi Nakamura)

New Smithsonian Ichthyological Reprint

The Smithsonian Institution Press announces publication (1986) of Volume 5 of P. Bleeker's *Atlas Ichthyologique des Indes Orientales Néerlandaises*, containing accounts of the Antennariidae and Plectognathi. Price \$ 50.00.

Also available are Volumes 1 to 4, \$ 50.00 each, and

the Plates for Tomes XI-XIV (single volume), \$ 250.00.

Payment must accompany all orders from individuals. Include \$ 1.50 postage and handling for first book and \$ 0.50 for each additional book. Order from Smithsonian Institution Press, P.O. Box 1579, Washington, D.C. 20013.

(Victor G. Springer)

会 記・Proceedings

名簿の訂正と住所変更

32 巻 4 号の名簿に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。また、名簿作成後に住所変更のあった会員の住所 (5 月 1 日現在) も以下に収録いたしました。名簿の誤りに気づかれた場合や住所変更をなさった場合には、学会事務センター内の魚類学会事務所までご連絡下さい。

[Redacted text block containing names and addresses, partially obscured by black boxes]

[Redacted text block containing names and addresses, partially obscured by black boxes]